

2022年6月21日

講座名は第8回、配布資料は第10回池田屋事件となっていますが、講義内容は攘夷事件の経緯、背景、八月十八日の政変まででありました。

1. 八月十八日の政変に至るまでの経緯

- ・文久元年(1861)2月 ロシアのオールコックが、一時的に対馬を占拠する恐れがあった。
- ・日本は、中国の香港のように侵略されるのではないかと警戒した。
- ・イギリス、アメリカ、フランスは、貿易のみが重要であり、ロシアの領土拡大の野心は阻止すべきであるとした。

2. 八月十八日の政変

- ・文久3年(1863)4月 幕府は5月10日攘夷決行を奏上
- ・文久3年(1863)5月 長州藩が外国船砲撃(下関事件)
- ・文久3年(1863)7月 薩英戦争(薩摩は敗北し、戦力を喪失した)
- ・文久3年(1863)8月 八月十八日の政変 薩摩・会津の公武合体派が長州を追放した。三条実美の参朝禁止(七卿の都落ちは自発的なもの)

3. 八月十八日の政変後 尊王攘夷運動の激化→失敗→尊王攘夷運動の終わり

- ・文久3年(1863)8月 天誅組の変 倒幕の先駆でなく政変直後の勢力拡大狙い
- ・文久3年(1863)10月12日 生野の変 一種の代理戦争 10月14日に終結
- ・文久4年(1864)3月~12月 天狗党の乱 水戸藩で拳兵、加賀藩に降伏
 - ・文久4年(1864)7月~9月 禁門の変(蛤御門の変)元治甲子戦争とも言う



文久3年(1863)5月10日攘夷期限のおさらい



文久3年(1863)5月 長州藩が外国船砲撃(下関事件)

林襄(京) 文久3年(1863)
 公儀(江) 含徳川家 越+薩・肥後
 公議政体論 細川
 大名連合国家
 八月十八日政変

八月十八日の政変の説明

朝議 { 関白 中山忠光
 武家伝奏 徳勅
 三條実美 議奏
 大御親兵 10万以上、近衛兵

朝議の構成メンバーと三條実美の役割の説明

1. 天誅組 尊王攘夷 忠光
 2. 生野 運動 激化
 3. 天狗党
 4. 禁門の変 (元治)

天誅組・生野・天狗党の乱と禁門の変の説明

長州藩尊攘派の動きに、薩摩・
 会津両藩は八月十八日の政変
 で、長州藩勢力と、三條実美
 らを京都から追放(七卿落
 ち)。長州藩は勢力挽回のため

長州藩尊王攘夷派の動きに、薩摩・会津両藩は八月十八日の政変で長州藩勢力と三條実美京都追放の説明